



臨床に役立つ

すぐれ  
モノ

Itsuro TANAKA

田中五郎

神奈川県・田中歯科医院

義歯床用硬質裏装材（光硬化・粉液型）

# トクヤマ ヒカリライナー

●トクヤマ ヒカリライナー

※本体・付属品などの詳細については下記へお問い合わせください。

【問い合わせ先】

株式会社トクヤマデンタル

〒110-0016

東京都台東区台東1-38-9

TEL 0120-54-1182（インフォメーションサービス）

<https://www.tokuyama-dental.co.jp/>

## パーシャルデンチャーの裏装時に、 時間を気にせず調整できる光硬化型の裏装材!!



### パーシャルデンチャーの裏装

パーシャルデンチャーのメンテナンスにおける顎堤吸収に対する裏装は、義歯の適合の維持や咬合高径の維持、またクラスプの維持力を保つために必要なテクニックである。

しかし、化学重合型裏装材を用いた口腔内直接法による裏装では、アンダーカットの多いパーシャルデンチャーの場合は、敬遠したくなるのが少なくない。なぜなら、即時重合タイプの裏装材は、途中でトリミングが必要で、撤去のタイミングもたいへん難しく、注意して行わなければならないからだ。

粘膜に適合した形態をもった裏装面は、まだ完全に硬化していない。そのため、少しでも触れたり、カットして除去する際に余計な部分が引っ張られたりすることで、変形させてしまう可能性がある。

また、トリミングの範囲を誤り、十分にトリミングができていない場合、残ったアンダーカット部の裏装材が硬化して、義歯を撤去できなくなる。

さらに、撤去のタイミングも要注意である。早すぎると裏装材が硬化時に変形を起こしやすいし、逆に遅すぎれば、アンダーカットに入った部分が少量であったとしても撤去できなくなる。これが最も怖い状況であり、口腔内直接法の裏装はこのトラブルが起きる可能性がたねにある。こうなってしまうと、口腔内で義歯を細かく分割して（壊して）撤去しなければならないが、義歯がない状態で患者を帰すわけにはいかない。そのため、分割して撤去した義歯をその場ですぐに修理し、元に戻さなければならない。そうしなければ、患者に多大な迷惑をかけてしまう。

これがレジン床義歯であれば、まだ救われる余地がある。仮に、これがメタルフレームのしっかりした義歯だったらと想像するだけでもゾッとする。このような経験で冷や汗をかいた読者もいるのではないだろうか。

パーシャルデンチャーにおける顎堤吸収は、義歯の内面に食物残渣が入る、義歯が歪んでクラスプのレストがずれる、咬合力が発揮できない、鉤歯を揺らすなど、放置しておく



図① トクヤマ ヒカリライナー

口腔環境を悪化させ、取り返しのつかない状況を引き起こしかねない。

そのため、定期的にチェックして、必要があれば素早く裏装して対応すべきである。しかし、手技の煩雑さにより、経験が浅く若い歯科医師は躊躇してしまう場面が多いように思われる。実際に、筆者もそうであった。

本稿では、そういった不安を解消できる義歯床用硬質裏装材（光硬化・粉液型）「トクヤマ ヒカリライナー」（トクヤマデンタル：図1）を、臨床使用例を用いて紹介する（図2～21）。

### 「トクヤマ ヒカリライナー」の特徴と注意点

この製品は、光重合によって最終硬化させる裏装材であるが、口腔内では最終硬化しないため、アンダーカット部に裏装材が入っても撤去できる（図12、13）。

また、口腔内への装着も練和から5分以内に行えばよいので、余裕をもって操作できる（図10）。口腔内に装着後、3分で弾性は保ちつつもほとんど変形しない状態になるので、術者だけでなく患者にとっても、ストレスがなく硬化を待って撤去できる。さらに、光照

射前であれば、やり直しも可能であり、エバンスなどで簡単に剥がせる。

ただし、同社の「リベースⅢ」同様、混和時には注意が必要である。初期の液と粉が馴染むのに時間がかかるため、混和はゆっくりと静かに行うことがコツである。はじめに勢いよく混ぜ合わせると、細かな気泡が入ってしまい、脱泡に苦勞する（図8、9）。



### 「トクヤマ ポータライト」と組み合わせ

光硬化型裏装材には、いろいろな利点がある。それにもかかわらず、臨床であまり使用されない大きな理由には、義歯に対応した光照射器を導入していない医院が多いという問題があるのではないだろうか。また、従来のラボの義歯用重合装置は、サイズが大きく、ファンの音も大きいという問題があった。

「トクヤマ ヒカリライナー」と同時に発売された歯科技工用重合装置「トクヤマ ポータライト」（図14）は、従来のラボの義歯用光重合装置に比べると、驚くほどコンパクトであり、ファンの音も静かなため、チェアサイドに置いて使用できる。

また、裏装の機会が多い訪問診療において

◆臨床使用例：顎堤吸収に対するパーシャルデンチャーの裏装（図2～21）



図2 フィットテスターによる適合試験。レストの位置がずれているのがわかる



図3 顎堤吸収して適合が悪くなった状態



図4 裏装のために、粘膜面を一層削除して新鮮面を出す



図5 頬側研磨面も同様に削除

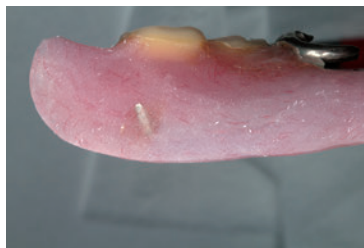


図6 舌側研磨面も同様に削除



図7 接着材を塗布して乾燥させる



図8 液を先に入れてから、粉を入れる



図9 液と粉が馴染むように、ゆっくり静かに混和する



図10 5分以内に盛り上げて口腔内に装着する。操作時間には余裕がある

も、軽量なのでたいへん便利である。これによって、光硬化型裏装材の大きな問題は解消されたように思われる。

硬化後は、強度もあり、割れにくく、義歯との馴染みもよい研磨性をもっているため、美しく仕上がる。

 **まとめ**

超高齢社会において、パーシャルデンチャー

はかかわる機会の多い補綴装置である。そのようななかで「トクヤマ ヒカリライナー」と「トクヤマ ポータライト」の組み合わせは、ストレスなく診療に向き合える便利な材料と器具ではないだろうか。

田中歯科医院  
〒232-0021 神奈川県横浜市南区真金町2-19-17



図11 口腔内に固定、咬合高径を回復するために、咬合させずにレストを手指で固定する (PD 裏装のコツ)

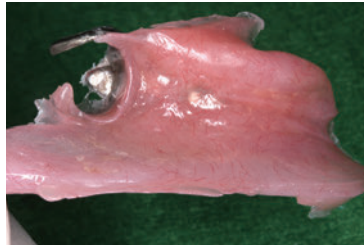


図12 裏装材はゴム状なので、アンダーカット部に入った部分も変形なく取り出せる

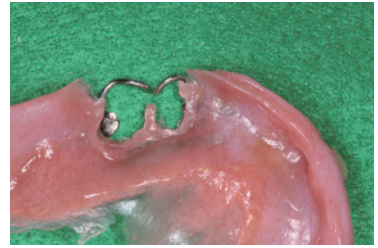


図13 このように取り囲むようなアンダーカットでも問題なく撤去できる (他症例)



図14 トクヤマ ポータライト



図15 ディスポーザブルのアルミ容器に40～60℃のお湯を入れ、それに浸けて光照射する。これにより衛生的に空気の遮断と、重合時の発熱を抑えられる

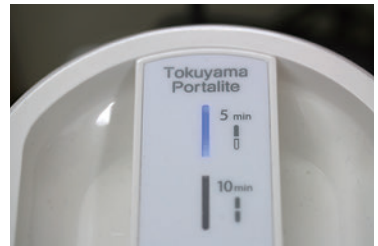


図16 5分と10分のタイマーがある。通常は5分でOK



図17 硬化後の状態。表面まで重合され、未重合のべたつきはない



図18 アンダーカット部を口腔に合わせて丁寧に調整した粘膜面フィットテスター像。適合が回復された



図19 頬側研磨面の移行もスムーズで、色調も馴染んでいる



図20 舌側研磨面の移行もスムーズで、色調も馴染んでいる



図21 裏装を行った義歯の口腔内の状態。レストの適合も回復し、咬合も戻った